

指導案(1コマ目)	生徒の活動	講師の支援
導入	<p>1.チェックイン・アイスブレイク( 10分)          チェックイン          本時の流れを確認し、ゲストスピーカー(海外出身 /留学経験者)を歓迎する。</p> <p>アイスブレイク          例:「どこにでも留学できるとしたらどの国へどのくらい行って何をしたい?」          2~3人ペアで話す(日本語でOK)</p>	<p>ファシリテーター、ゲストスピーカーが自己紹介          ・出身国／滞在国          ・今やっている仕事・活動</p> <p>緊張をほぐし、親しみやすい雰囲気を作る</p>
展開	<p>2.キャリアストーリー( 15分)          ゲストの生い立ち、なぜ海外へ行ったのか、困難をどう乗り越えたかの話を聞く。          ゲストの話を聞きながら、気になったこと・驚いたことをメモ(以下の視点をヒントとして提示)          ・なぜその道を選んだのか          ・うまくいかなかった経験          ・海外や異文化との関わり          ・今やっている仕事・活動のやりがい</p> <p>3.問い合わせ( 5分)          個人で質問を1つ考える          (例)          「どうして海外に行こうと思ったんですか?」          「英語が苦手でも大丈夫でしたか?」          「今の仕事につながったきっかけは何ですか?」          日本語／英語どちらでもOK</p> <p>4.インタビュータイム( 10分)          自分が考えた質問をゲストに投げかける          英語での質問にチャレンジ(任意)</p>	<p>2.キャリアストーリー( 15分)          ゲストには、成功談だけでなく、迷いや失敗、リアルな生活(食事・友達作り)も交えて話してもらう          難しい言葉は避け、必要に応じて補足説明          英語パートがある場合も、日本語でのフォローを入れる</p> <p>3.問い合わせ( 5分)          質問例(日本語・簡単な英語)を提示          どんな些細な質問(例:日本のご飯が恋しくなったか等)も歓迎する          英語に挑戦する生徒には、単語レベルでもOK          話まつたら日本語でサポート</p> <p>4.インタビュータイム( 10分)          生徒の質問をつなぎ、深める          ゲストの回答を、生徒の文脈に引き寄せて補足</p>
まとめ	<p>5.振り返り・次の一步への接続( 10分)          ワークシート or 口頭での振り返りを行い、印象に残ったキーワードを言語化する。          ベア(あるいはグループ、全体)で、気づきや学びの共有を行う。</p> <p>(例)          今日一番心に残った言葉・エピソード          「世界」や「働くこと」に対する見方の変化          これからやってみたい小さな一步          を希望者が共有</p> <p>※2コマ目を実施する際は、それに向けた課題も提示する</p>	<p>5.振り返り・次の一步への接続( 10分)          多角的な視点を持つよう促す</p>
指導案(2コマ目)	生徒の活動	講師の支援
導入	<p>1.チェックイン( 10分)          チェックイン          1コマ目の振り返りを行い、自分ならどこで何をしたいかイメージを膨らませる。          ワークシートの使い方の説明</p>	<p>「予算や学力は一旦無視して、ワクワクすることを優先」と伝える。</p>
展開	<p>2.夢の留学プラン作成( 12分)          個人ワーク(12分)          行きたい国・都市を決める(何個あってもOK)          現地で「絶対にやりたいこと」を3つ挙げる(例:現地の学校で部活に入る、プロサッカーを観る等)</p> <p>3.対話活動( 10分)          自分の夢の留学プランを3人1組で共有する。          聞き手は、相手の留学プランの魅力的な点・もっと聞きたいことの2点を話し手に共有する</p>	<p>2.夢の留学プラン作成( 12分)          タブレット等で現地の画像や情報を検索し、具体性を高める。</p> <p>3.対話活動( 10分)          4.ミニ発表(8分)          お互いのプランを肯定し、多様な価値観を認め合う。</p>
まとめ	<p>5.振り返り・次の一步への接続( 10分)          ワークシート or 口頭での振り返りを行い、印象に残ったキーワードを言語化する。          ベア(あるいはグループ、全体)で、気づきや学びの共有を行う。</p> <p>例:          今日一番心に残った言葉・エピソード          「世界」や「働くこと」に対する見方の変化          これからやってみたい小さな一步          を希望者が共有</p>	<p>最後のまとめとして、講師からのフィードバックと、明日からできる一歩(英語学習やニュース視聴等)を共有。          「留学は夢ではなく、計画すれば実現できる選択肢」であることを強調。</p>